

研究課題 (テーマ)	糖尿病透析患者の栄養改善につながるセルフケア行動構造モデルの作成		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	講師	濱野 初恵
	長岡崇徳大学看護学部	助教	熊倉 良太
	国立長寿医療研究センター	外来研究員	森 優太
	東京西徳洲会病院	看護師	大森 泉
研究結果の概要			
<p>【背景・目的】</p> <p>透析医療技術の進歩により、長期間の血液透析歴を有する透析患者が増加している。透析患者では特有の栄養障害をきたしやすく、フレイルを惹起しやすいとの報告がある。その中で患者全体の4割以上を占める糖尿病透析患者においては、高血糖による異化作用が筋肉量を減少させることから、よりフレイルに陥りやすい。そのため、糖尿病透析患者が良好な血糖管理を保ちながら栄養状態を維持していく必要があり、患者自身の食事自己管理能力を高めることが重要である。</p> <p>本研究では、糖尿病透析患者の栄養改善につながるセルフケア行動に関連する因子間の構造を明らかにすることを目的とする。</p> <p>【研究方法】</p> <p>1.研究デザイン 無記名自記式質問紙による横断調査研究</p> <p>2.対象者 全国の医療機関に通院している糖尿病透析患者</p> <p>3.実施方法 血液透析療法を実施しており研究協力の同意が得られた24の医療機関にて、無記名自記式質問紙調査を行った。175名より回答が得られ、そのうち有効回答数は154名(有効回答率88.0%)であった。現在も同意の得られた3施設にてデータ収集を継続している。</p> <p>4.調査内容 基本属性、食事関連ライフスキル、ソーシャルサポート、環境要因、食事管理自己効力、栄養状態、セルフケア能力</p> <p>5.分析方法 記述統計、相関分析、t検定、重回帰分析を行うとともに、構造方程式モデリング(Structural Equation Modeling)を用い、糖尿病透析患者特有のセルフケア行動構造モデルの検証を行う。</p> <p>本研究結果は、今後国内学会、学術誌にて成果を発表する予定である。 ご協力いただきました医療機関関係者の皆様ならびに糖尿病透析患者様に感謝申し上げます。</p>			
今後の展開			
分析結果を踏まえ、今後は食事関連ライフスキルを活用した糖尿病透析患者支援プログラムの開発を目指す。			